

## 令和6年度 第1回学校関係者評価委員会

日 時：令和6年9月27日(金)19:00～19:50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：小林小夜子，有福浩二，大坪 健，吉岡正恒，栗田千栄

淡野義長，韋 傳春，林勇一郎，荒木一博，山内 満，牧山美穂

欠席者：なし

座 長：韋

### 1. 出席者紹介

### 2. 校長挨拶

オープンキャンパスの参加者は昨年と比べて1～2割位少ない。18歳人口の動態は先の数字を見ると啞然とするが、まだその影響は出てない、出始めてるような状況である。

入試の総合型選抜が終わり、PT2名、OT4名が応募してくれた。総合学選抜で動きの早い生徒は結構しっかりしており全員合格だった。今後さらに控える入試にも応募してもらいたい。オープンキャンパスで理学療法希望が大体40名超え、作業療法希望が25名程度、そのうち本校にどれくらい来てくるのか期待している。一方で高校を訪問すると、世の中の景気がいいためか、就職はこの3年位増えてきている話も聞く。五島では、島を出るなら生徒は長崎より福岡へ行くらしく、ぜひ長崎で免許を取って働きに福岡行ってほしい。

昨年度理学療法が定員を割り込んできたのが、私には衝撃的だった。作業療法も含めて今年どこまで挽回できるか願う。

この度、長崎リハビリテーション病院と主たる実習施設という、いわゆる附属病院クラスの関係である契約を結んだ。私の古巣であり、ガイドラインで示されたように原則1番近いところでもある。実習部門というだけではなく、生涯教育に少しでも寄与できることや、オープンキャンパスを現場で行い、中学生も含めてなるべく早めに職業意識を作るに適した場所で使わせてもらいたい。ちなみに主たる実習施設は県内の養成校では初である。

### 3. 前回会議後の報告

牧山) 前期行事、取り組みの報告

- ・新型コロナが5類に移行に伴い行事への取り組みをコロナ禍前並みに再開した。4月には医技専さるく博にて、先・後輩の仲を深め教員とも触れ合った。5月には1年生合同交流会を日吉自然の家にて実施し、科の枠を超えて学年の横の繋がりを深められた(POT NURTUREにも記載)。

### 4. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

### 5. 委員長選出

委員長は小林小夜子先生ですすめさせて頂く。

### 6. 審議事項

山内)『令和6年度学生アンケート結果について』(別紙資料)

山内) (資料に沿って説明)

- ・去年と同様今年もアンケートを取り、回収率は8割近くあった。去年と多少前後あるが、大方の質問項目について満足をしているという回答が多かった。
- ・去年弁当販売の満足度が低かったが、今年度は種類も増やしたこともあり満足度も上がった。
- ・学校のスケジュールや行事予定が把握しにくいと感じている学生が3割強いる。
- ・自由記載項の意見の中で、以前からも声はあったが試験後の問題用紙の返却に関する意見が具体的に上がっていた。教員によって、授業の伝わり方、わかりやすさの部分を要望する学生の声があった。頑張る意識や感謝の意見もあった。色々ご意見をいただきながら、対策を検討していきたい。

荒木)『令和6年度保護者アンケート結果について』(別紙資料)

荒木) (資料に沿って説明)

- ・前期の試験結果を保護者様に送るタイミングと、ポットナーチャーを保護者に送るタイミングでアンケートを知らせた。2回催促もしたが、回収率が35.8%で、なかなか回収率は上がってこなかった。
- ・傾向としては去年とそこまで大差はないが、全体的に点数は今回下がっていた。
- ・質問1「学校のスケジュールや学校行事の様子がわかる」については、今年も6割台だった。
- ・質問7「保護者からも、学校や担任に連絡が取りやすい環境であると感じる」についても7割を切った。
- ・自由記載で良い意見もあるが、『再試験の合格者が多い、合格をさせないようにしているのではないか』という誤解もあったり、『試験の答案を見せてもらえず対策ができないのではないか』、『行事やお知らせの連絡はもう少し 早めに教えていただきたい』、『遠隔地の実習に際しては心のケアをきちんとしてほしい』、その他お弁当のことなど、数は少ないが去年と同じように少し厳しい意見をいただいた。
- ・過去6年間のアンケートの推移を載せたが、google フォームを使ったアンケートを取るようになり回収率が急に下がったようだ。一方で意見がないというのは、ある意味どちらでもないというような意見かとも思う。ご意見をいただきながら、今後対策を講じてきたい。

大坪) アンケートで感謝もしくは少し厳しい意見があるが、返事や回答はどうしているのか。

質問「社会人や医療人としての人間性を育む教育が行われていると感じる」は、学生も保護者も結構高い割合である。専門的な知識を学ぶことも大事だが人間性を育む教育は非常に大事である。例えばどういう講義がされているのか。

荒木) ホームページに去年の分の意見・学校の対策を記載している。ポットナーチャーにもホームページにて公開していることを知らせている。

山内) 1つは、夏休み入る前に命の講座やゲートキーパー養成講座など命に関わるような話をしている。実習に出る前に実習オリエンテーションで結構時間をかけて心構えを伝えている。人間性を育むという面では、学校の行事を通して他学年や教員との交流のイベントだったり、障害者スポーツも取り入れた行事などで医療人としての部分と他者との交流の中での人間性に触れて、高く評価していると思う。

荒木) 実習行く前に毎回実習オリエンテーションを行うが、その中で心得や病院で求められる姿勢、服

装、髪型も厳しく伝えている。最近はグループワークをさせてお互いで考えさせ、自分たちで意見を出させる機会も作った。学生は社会人への教育の一環として受け取って実感していると感じる。

大坪) 多様性とか個人的な考えを間違っ取る人もいると思うが、一般的な常識を学べていて良いと思う。

吉岡) 生徒と保護者で重複している内容が再試の件と情報を早く教えてほしいことのようなのだが、学校はどういう風に受け取りどう改善していこうと思われているのか。

回収率とフィードバックは1番大事だと思っている。もう一步踏み込んで具体的に的を絞ってもいいのでこういう風に改善していくというような発信は今後必要ではないかと感じた。

韋) スケジュールに関してはホームページになるべく細かく更新してあげている。学生への伝達としては、職員で検討したものをなるべく早めに伝えているが、ギリギリまで検討が必要なものもある。しかしホームページをあまり見ていない。google カレンダーも使い授業変更もすぐわかるようにしており、タブレットのアプリのクラスルームでも授業の準備など随時連絡は行い、前日には課題や準備物を流して以前に比べると細かく行っている。メールメイトも1/3以上は登録しているのでもうまく使えるようにしていけたらと思う。

小林) シラバスとの関連はどうなっているのか。準備物がわかるのではないかな。

林) シラバスは回数ごとに整えている。授業の遂行についてはデジタルで随時リアルタイムに確認できる。

韋) 見れば確認はできるのだが確認しない、先の予定を踏まえて行動していない、事前の準備もできない、スケジュールを立てられないようだ。情報はいくらでもあるので、計画立てて自己管理しようという意識があればよいのだが。

山内) アルバイトをする学生が増えてきており、終礼が伸びたり、空いていた4限目に急遽授業が入る場合などアルバイトとの兼ね合いで早めに教えてほしい場合もあったようだ。

小林) 時間から時間に終わるというのをまず第一に考えるのはどうか。

山内) 各担任の先生も、様々な手段で連絡をしているが、直接学生に伝えなければいけないこともある。いろんな連絡手段で工夫をしていこうと思う。

栗田) 保護者として、アンケートの回収率が低いこと、内容も6割7割というの結果は残念に思う。

自宅の方にポットナーチャーを送っていただき、淡野先生が書かれた学校以外の環境に身を置いてそこで得た経験を政治に生かしてほしいなどすごく共感しながら読ませていただき、写真も子どもたちの表情が生き生きとしていて、恵まれた環境下で学ぶことができているんだなとすごく感じた。ホームページなども息子が通っていた時からするとすごく多岐にわたり具体的にたくさん掲載していただいて情報の更新も既にされているので、すごく先生たちがご尽力いただいていることは感じる、そこを見ていない人たちの意見なのかなと感じている。直接先生方にお礼を言う機会もないので、この場をお借りして感謝を申し上げたい。

韋) 教員がアンケートを分析した際に、保護者が来る機会がないので自由に授業に参加できる期間を作る意見が出たが、いかがであろうか。

栗田) 絶対来たい。直接行くことで普段見ない様子を知り、先生と話せることで学校が身近に感じられすごくいい機会だと思う。ぜひそうしていただけると嬉しい。

小林) 美容学校で行っていたケースだが、前期・後期に一回ずつ保護者感謝デーを設けて、保護者から喜ばれ出席率が結構高い。ここでは保護者に患者さんになってもらおうと楽しいのではないかな。  
校長) ある程度環境を作り、実技とか参加型を準備してオープンキャンパスの対象を保護者にするようなイベント的な方がいいように思う。

小林) 学校に対する意識も変わるのではないかな。1日でなく何日か設けた方がいいと思う。

有福) スケジュールを早く知らせてほしいとの意見は少数である。今情報量がものすごく多くて、自分で考えることをしなくなってしまうのではないかな。連絡先を一本化するとか、コンパクトにしてはどうか。

韋) 情報提供の絞り込みとか、授業参観みたいなことも考えていきながらアンケートに応えていきたい。

## 7. 総評

小林) 保護者や学生にいかに私たちが応えていくか、これが学校を高める方法なのかと感じた。いくつかご意見等があったので、具体的に形に表して、早速後期からでも少しずつ形に合わせてもらおうといい。

## 8. 謝辞

淡野) 学校にとって学生はカスタマーだと思うが、職業前教育においてはカスタマーの満足度を上げるのが本当にいいのかなと思う。学校時代に大事にされて気を遣われて、いきなり臨床に行って今度は気を遣う方になり、そのギャップが大きすぎて1年目からバーンアウトするというのは少なくない。

先ほど話があった自分でやってもらうように、自分で取捨選択できるように、自分で準備できるようにどう教育していくのかは1番難しいかなと思う。

カスタマーサービスは大事だが、その方向性を間違わないようにしたいと思う。

## 9. 閉会

韋) これを持って令和6年度第1回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和7年3月28日(金)を予定する。